

**レンズ交換式カメラ EOS シリーズが累計生産台数 1 億台を達成**

キヤノンのレンズ交換式カメラ EOS シリーズの銀塩（フィルム）とデジタルの双方を合わせた累計生産台数が、2019年9月20日（金）に1億台<sup>※1</sup>を達成しました。なお、1億台目に生産したカメラは、ミラーレスカメラ「EOS R」（2018年10月発売）でした。



EOS シリーズ

EOS とは「Electro Optical System」の略称で、ギリシャ神話の「曙の女神」の名でもあります。多様なニーズに応える魅力的な製品ラインアップと表現の幅を広げる EF レンズの拡充に努めることで、EOS シリーズは長年に渡り多くのユーザーから支持を得てきました。その結果、2003年から2018年までに16年連続でレンズ交換式デジタルカメラ世界シェア No.1<sup>※2</sup>を獲得するとともに、2019年9月20日に累計生産台数1億台を達成することができました。

EOS の初号機「EOS 650」は、世界初の電子マウント方式を採用した新世代の AF 一眼レフカメラとして1987年に誕生しました。福島工場（当時）で生産を開始した EOS は、以来、現在に至るまで大分キヤノンを中心に、台湾・宮崎・長崎などの生産拠点で、高い品質管理の下、生産を行っています。その後、最高級機「EOS-1」（1989年）や、小型・軽量を実現した「EOS Kiss」（1993年）を発売するなど「快速・快適」を実現する革新的な技術を搭載した製品を展開し、プロからアマチュアまでユーザー層の裾野を広げてきました。

デジタル一眼レフカメラの普及が本格化した2000年以降は、自社製の CMOS センサーや映像エンジン「DIGIC」などの先端技術により、新たに「高画質」を基本コンセプトに加え、さらなる魅力的な製品を追求しています。小型・軽量と低価格を実現し、レンズ交換式デジタルカメラの普及に大きく貢献した「EOS Kiss Digital」（2003年）や、レンズ交換式デジタルカメラによる動画撮影を普及させた「EOS 5D」シリーズを展開し、2012年には映像技術を B to B の分野にまで広げた映像制作機器「CINEMA EOS SYSTEM」を立ち上げ、映像制作業界への参入を果たしました。さらに、2018年には新たに「RF マウント」を採用した「EOS R システム」を世に送り出すなど、新しい提案を続けています。

静止画から始まった EOS は動画へと撮影領域を拡張し、初心者からプロフォトグラファーに至るまで、さまざまなユーザーへと支持を広げてきました。キヤノンは、これからも EOS シリーズの基本コンセプトである「快速・快適・高画質」の追求を続けることで、EOS システムをさらに強化・拡充し、写真・映像文化の発展に貢献していきます。

※1 映像制作用のシネマカメラを含む。  
 ※2 台数シェアにおいて。（キヤノン調べ）

<歴史的な機種と主な特長・技術内容>



**EOS 650**  
 <1987年3月発売>  
 EOSシリーズの初号機。



**EOS-1**  
 <1989年9月発売>  
 EOSシリーズ初のプロ向け最上位カメラ。



**EOS Kiss**  
 <1993年9月発売>  
 発売当時世界最小・最軽量を  
 実現し、一眼レフカメラを  
 身近なものに。



**EOS Kiss Digital**  
 <2003年9月発売>  
 デジタル一眼レフカメラの  
 普及に大きく貢献。



**EOS 5D Mark II**  
 <2008年11月発売>  
 レンズ交換式カメラとして  
 初のフルHDでの動画撮影  
 機能を搭載。



**EOS C300**  
 <2012年1月発売>  
 映像制作市場向けの  
 CINEMA EOS SYSTEMの  
 初号機。

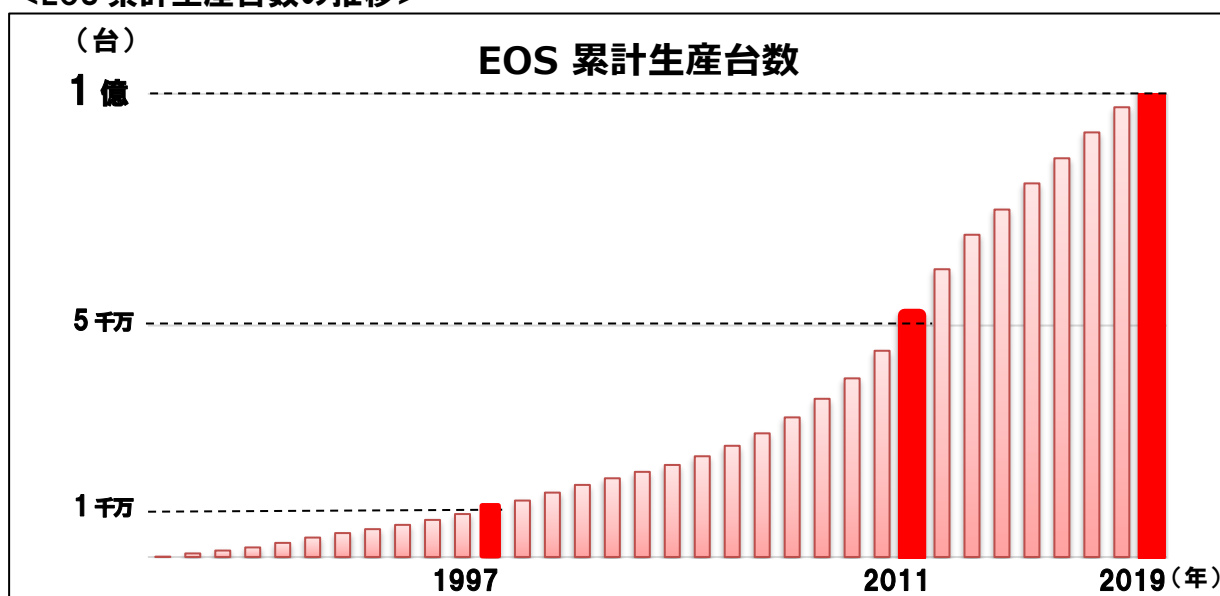


**EOS R**  
 <2018年10月発売>  
 新たに「RFマウント」を  
 採用したEOS Rシステム  
 の初号機。



**EOS RP**  
 <2019年3月発売>  
 フルサイズCMOSセンサー  
 搭載の小型・軽量ミラーレス  
 カメラ。

<EOS 累計生産台数の推移>



EOSシリーズの累計生産台数は、1997年に1,000万台を超えました。特に2000年代前半からのデジタル一眼レフカメラの普及や多様なニーズに対応した製品ラインアップの形成により、2011年には5,000万台に到達し、このたび2019年9月20日に1億台を達成しました。